

法廷通訳における訳出上の課題について

—否定疑問文を対象とした通訳調査からの考察—¹⁾

水野かほる

(静岡県立大学国際関係学部)

Linguistic differences between languages and interpreting process affect phrasing in translated language. This phenomenon may lead to a critical issue in court interpreting, which requires higher accuracy and trueness above any other type of interpreting. In this study, the author focused on the negative question form frequently used in cross examinations and conducted a survey among the interpreters regarding translation of Japanese negative question sentences into Chinese, Korean, English and Filipino (Tagalog). The study examined the aforementioned issue from a view point of; (1) the scope of the source language which is translated into a negative question, (2) translation of its response, and (3) ease or difficulty of translation.

1. はじめに

通訳の中でも何よりも正確性と忠実さ（法的等価）が要求される法廷通訳では、原発言者のメッセージの内容を別の言語の聞き手に確実かつ効果的に伝わるように表現することの難しさが存在する。また通訳人の言語能力や通訳スキルとは別の、言語の違いが原因で通訳プロセスにおいて訳出される言語形式が変化してしまうことが重大な結果をもたらす可能性がある。法廷通訳人に対する調査において、通訳し辛いという回答が多くあげられたのがしばしば反対尋問などで使用される「否定疑問文」であった（高畑他 2013）。

そこで、「否定疑問文」を対象として、実際に被調査者がどのように訳したかの調査を行った。その結果をもとに「訳出という行為」がもたらす意味と課題を明らかにし、今後の通訳実務に有効な知見を得ることを目的とする。

まず日本語否定疑問文の特徴について先行研究を概観し、その後、本研究における調査の概要と結果について述べ、通訳のプロセスを経ることによってどのような課題が生じるかを考察する。

MIZUNO Kaoru, "Challenges in Translation in Court Interpreting: Considerations of Negative Questions Based on an Interpreter Survey," *Interpreting and Translation Studies*, No.16, 2016. Pages 63-84. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

2. 日本語の否定疑問文について

日本語の否定疑問文には、一概に否定疑問文と言っても、「吉田さんから電話はありませんでしたか？」のような質問文以外に、感嘆、依頼、誘いなど様々な意味を持ったものが存在する。形式面では、否定辞「ない」と疑問助詞「か」の組み合わせを持つ疑問文をひとまとめにして否定疑問文として分析する立場(田野村 1988²⁾等)がある。一方、否定辞を含む疑問文でありながら一見否定を表していないような否定疑問文のうち、「ではないか」「のではないか」などは、文末形式の固定化(文法化)が進んでおり、意味的、機能的にも異なっていると考え、別形式として扱う立場(安達 1999 等)も存在する。本稿では、否定疑問文を、意味の面では聞き手への問いかけ性を持つもの、形では、「ないか」「ではないか」「のではないか」等の否定疑問文の形式を持つものとする。従って、様々な形式を含む否定疑問文がどのように訳出されるのかを考察した。

井上(1992)等は、日本語の否定疑問文には2つのタイプがあるとし、「純粹否定疑問文」では否定命題が、「誘導否定疑問文」では肯定命題が質問命題となり、その応答は逆のパターンをとるとする。「太郎から連絡はなかったか？」を例に見ると、下のAのaは、「太郎から連絡はない」という話し手の概念([]で囲む)が質問命題となり、それが事実かどうかを確認するために尋ねているのであるから、聞き手は連絡を受けていなければ、「はい、(その通り太郎から連絡は)なかった」と答える。Bのbの例のように、「太郎から連絡があった」と言う答えを引き出そうとして使われる疑問文(肯定命題が質問命題)では、連絡を受けていれば、「はい、(連絡は)あった」となる(井上 1992, pp.126-127)。即ち、質問命題と応答命題の極性が一致する場合は肯定、一致しない場合は否定の応答詞が用いられる。例えば、英語と日本語で応答の仕方が異なるのは、応答が質疑の命題内容に含まれる肯定命題の部分に対するものであるか(英語)、全体命題に対するものであるか(日本語)にある。否定疑問文に対する応答の仕方については、5.2において、さらに調査結果と共に説明したい。

「太郎から連絡はなかったか？」

A 純粹否定疑問文

a [太郎から(何も)連絡はなかった] か？

「うん、なかったよ。/いや、あったよ。」

B 誘導否定疑問文

b [太郎から(何か)連絡があった] ないか？

「うん、あったよ。/いや、なかったよ。」 (井上 1992, pp.126-127)

日本語の誘ったり勧めたりする表現では、否定疑問文を用い、聞き手が誘いや勧めに応じないだろうことを予想しているかのように表現することが多い。特に聞き手が予想していなかったり聞き手の予定や意志に反する行為をするように誘ったりすると

きには、否定疑問文の使用が相応しいと見做される。また、行為要求表現の場合、肯定疑問文より否定疑問文を使用する方が相手の意志を尊重し丁寧な感じがすると考えられ、相手の承諾があまり期待できない状況では、否定形の方がより受け入れられやすいと言えるだろう。

また、次の文には、「彼は来るだろう。」という話し手の判断が存在しているが、このように話し手が肯定、否定のどちらかの答えを予測するかたちをとっている見込みのことを「傾き (bias)」³⁾と呼ぶ (安達 1999 等)。通常、否定疑問文には肯定命題への傾きが存在していると言われる (安達 1999, p.24)。

彼、来るんじゃない？ (安達 1992, p.50)

法廷では、検察官や弁護人は、裁判を有利に進めるためにしばしば傾きを持った否定疑問文を使用するのではないかと考えられる。例えば、弁護における証人尋問を成功させる秘訣は、証人に何を言ってもらいたいかを理解し、それを言わせることだとされる (エヴァンス 2000)。傾きを持つ発話は、話し手が疑問としている命題内容について、聞き手がどのような答えをするかへの予想や見込みを持っている。法廷での否定疑問文の使用は、話し手が作り上げた仮説 (=傾き) の正否を尋ねることによって⁴⁾、証言の信頼性を確認しながら仮説へと導くように「傾き」を方略的に利用しているのではないだろうか。

以上の否定疑問文の特徴が通訳にどのような影響を与え、どのような通訳文が得られるのかも本研究の課題である。

3. 調査の概要

3.1 調査目的

日本語の否定疑問文とその応答を日本語から他の言語に通訳するとき、どのように言語形式や意味は変化するのか。正確に訳出することを難しくするのは起点言語である日本語文のどのような点であるのか。通訳言語が異なるとそれらは変わるのか。起点言語である日本語発話を目標言語の母語話者にとって不自然ではない言語表現にそのまま訳出することは可能なのか。これらの点を明らかにするため、被調査者に日本語の発話を韓国・朝鮮語、中国語、英語、フィリピン (タガログ) 語⁵⁾ に訳してもらい、実際に訳出された言語表現をもとに分析検討を行った⁶⁾。なお、本調査で調査文として用いた発話は、特に裁判の場で用いられる用語や表現を使用したものではない。本研究の目的は通訳を経ることによってどのような影響を受けるのかを明らかにすることであるので、法廷で法廷通訳人が実際にどのように通訳を行っているかに関しては今後の課題とし、ここでは一般的な発話を対象とした調査を行った。従って、被調査者の選定に法廷通訳の経験は問わなかった。

3.2 調査方法

被調査者に、様々な形式の日本語の否定疑問文と応答から成る短い会話26(肯定疑問文を含む。例 A: さっき太郎に会わなかった? B: はい、会いました。)を聞いて目標言語に訳してもらい、録音した。通訳を行うにあたっては、辞書を使用したりメモをとっても構わないこと、意識ではなく原文をそのまま訳してもらいたいが、当該言語母語話者が聞いて不自然に感じない表現を使用すること、という指示を与えた。通訳終了後、各発話を訳す際に感じた訳しにくさ訳しやすさを5段階で記述してもらった。さらに、フォローアップインタビューを行い、なぜ訳しにくいと感じたかについて内省をしてもらった。

被調査者⁷⁾: 日本語及び通訳言語の上級能力保持者であり、通訳言語あるいは日本語の母語話者(各言語6人)。計24人。

調査時期: 2014年7月~2015年8月

3.3 調査文

通訳をしてもらうのに用いた調査文は、肯定疑問文か否定疑問文である疑問文とそれに対する応答の26セットである。否定疑問文の形式は小山(2002)を参考に設定した⁸⁾。調査文は先行研究からの借用と自作文とからなる。以下にその形式と例文を挙げる。

<調査文例>

①肯定疑問文

例 A: 太郎から連絡はありましたか?

B: いいえ、ありませんでした。

②否定疑問文: P(命題) ないか⁹⁾

例 A: 昨日、梅田に飲みに行きませんでしたか? (安達 1999)

B: いいえ、梅田には行っていません。

③否定疑問文: P ないのか

例 A: あまり食べていないね。食欲がないの?

B: いいえ、そんなことはないです。

④否定疑問文: P ではないか

例 A: 君の結婚相手、なかなか素敵な人らしいじゃないか。 (安達 1999)

B: うん、まあね。

⑤否定疑問文: P のではないか

例 A: この間の会合で田中さんに会ったんじゃないでしょうか?

B: ええ、会いました。

⑥否定疑問文: P ないのではないか

例 A: あなたはあの日、本当は広島に行かなかったんじゃないでしょうか? (小山 2002)

B: いいえ、行きました。

⑦傾きのない否定疑問文

例 A: どう? わからないこと、ない?

(安達 1999)

B: あ……ありません。

4. 分析項目

調査によって得られたデータは、以下の項目について分析を行い、その結果をまとめた。

- ①否定疑問文に訳出される範囲について：日本語否定疑問文を目標言語に訳した時に否定疑問文に訳出できる範囲、及び否定疑問文にならない場合どのような形式に訳されるか。
- ②否定疑問文に対する応答の仕方について：目標言語における否定疑問文に対する応答の仕方の相違が訳出にどのような影響を与えるか。
- ③訳しやすさ・訳しにくさについて：被調査者が訳出時に感じた訳しやすさ・訳しにくさはどのようなもので、その言語別・形式別の共通点と相違点について分析する。

5. 結果と考察

被調査者が訳出した発話は、各言語の専門家¹⁰⁾に依頼して、当該言語の発話として適切であるかの判断をしてもらった¹¹⁾。また被調査者に対する訳しやすかったかどうかのアンケート及びフォローアップインタビューからは、どのような否定疑問文が通訳の困難度を高め、通訳人に負担を感じさせるか等を知ることができるであろう。

以下において、①否定疑問文の訳出範囲について、②応答の仕方について、③訳しやすさ・訳しにくさについて、の順に調査結果とそれらについての考察をする¹²⁾。

5.1 否定疑問文に訳出される範囲について

どの言語においても肯定疑問文も否定疑問文も存在するが、例えば、日本語では否定疑問文であっても目標言語に訳出した場合に否定疑問文が用いられなかったり、無理に訳そうとすると不自然な表現になったりする場合があると思われる。安達(1999)は、「傾き」を媒介として、否定疑問文としての機能から平叙文的な機能へという方向への機能の移行が起こると述べているが、日本語の否定疑問文は使用範囲が広く、従って、日本語から他言語に訳す場合は、否定疑問文に訳せない場合があると考えられる。

では、本調査で通訳言語として用いられた言語についてはどうであろうか。まず、韓国・朝鮮語への訳出について述べる。日本語否定疑問文の韓国・朝鮮語への訳出は、比較的適切な訳出が行なわれたと判断された。但し、訳出された形式を見ると、否定疑問文にならないものがあった。例えば、韓国・朝鮮語では「知る알다」と「知らない모르다」、「ある,いる있다」と「ない,いない없다」はそれぞれ一語で表すため、「知らない」を「모르다」を使って直訳しても否定疑問文にはならない。しかし、訳出さ

れた文の中に、語彙的に否定疑問文にならないものを無理に否定疑問文にして不自然なものになったり、否定疑問文ではあるが原文の意味と合わないものになっている発話が見られた¹³⁾。

次に、中国語への訳出結果について説明する。中国語の否定疑問文は、ここでは主に「不」「没」などの否定辞と疑問を表す助詞「吗」で構成されていると考える(李2011a, p.68)。中国語の否定疑問文はほとんど日本語否定疑問文でカバーされると言われ(大西1993, p.10)、つまり日本語の方が否定疑問文が使用される範囲が広いと考えられる。実際、本調査において中国語でも否定疑問文に訳出されたものは多くはなかった。以下の(1)(2)は否定疑問文に訳された例であるが、これらは否定疑問文に訳した被調査者が多かった調査文であり、5人が否定疑問文、1人が否定の反語文に訳した。

(1) 彼を知らないのですか? (小山2002)

你不认识他吗? [彼のことを知らないのですか?]¹⁴⁾

(2) さっき太郎に会わなかった?

刚才你没见到太郎吗? [さっき太郎を見なかったですか?]

日本語では相手に何かを持っているかどうかを尋ねたり何かを探していたりする状況では否定疑問文が用いられるのが一般的であり、「小銭持ってない?」「赤い首輪をした猫を見ませんでしたか?」のように、相手が持っていること見ていることを期待しながらも配慮を含んだ表現を用いる。しかし中国語ではこのような時、肯定疑問文で表すか、期待を無視し命題の真偽だけをニュートラルに問いかける肯定の真偽疑問文「有…吗?」かv-not-v疑問文(「有没有」「有……没有」)を用い、「有零钱吗?」「小銭持ってない?」のように表現する。本調査では、「隣の部屋に誰かいませんか?」「この問題を解くのに、どこか難しいところはありましたか?」を否定疑問文に訳したのは6人中1人であり、以下の例のように「有没有~?」等を用いた被調査者が大部分、すなわち残りの5人であった¹⁵⁾。

(3) 隣の部屋に誰かいませんか? (小山2002)

有谁在隔壁的房间吗? [隣の部屋に誰かいるの?]

(4) この問題を解くのに、どこか難しいところはありましたか?¹⁶⁾

在解答这个问题的时候、有没有难的地方? [この問題に答えるとき、何か難しいところがありますか?]

その他の文でも、中国語ではそれほど強い確信のない話し手の推量は文形式上に反映されない(大西1987, p.22)。例えば、次の例のように、①の文も②の文もニュートラルな問いかけに用いる③のようなパターンが使用される(ibid.)。

- ①行きましたか？
- ②行きませんでしたか？
- ③去了？／去了没有？

また、日本語の否定疑問文では、構文上は否定疑問文でも意味上は発話内容が否定されていない以下のような疑問文がしばしば使用される。

「私に黙ってることない？」(安達 1999, p.25)

このような否定疑問文の「ないか」は否定命題の構成には関与せず、むしろ「ないか」全体で一つの談話標識あるいはモダリティ表現として捉えられており、「黙っていることあるだろう」や「黙っていることあるでしょ？」に置き換えることが可能であるとされる(安達 1999)。このような肯定的傾きを持つ否定疑問文は「你是不是有事瞞着我？」か「你有事瞞着我吧？」と訳されるのが普通であると指摘されている(李 2011b)。中国語の「是不是」疑問文は、話し手の推量を前提とした問いかけであり、「のではないか」「のか」と類似しており(李 2011b, 大西 1987)、肯定への傾きを持つ場合が多いが、否定の傾きを持ったり傾きを持たなかったりする場合もあり、真偽疑問文としても反語文としても用いられる特殊な「正反疑問文」¹⁷⁾と言えるとされる(李 2011b, p.60)。本調査においては、以下のような「のではないか」「ないのではないか」に「是不是」疑問文に訳出されたものが多く見られたが、被調査者全員がこの形式を選択したのではなかった。

- (5) 佐藤さん、あなたは何か隠しているんじゃないですか？(小山 2002)

佐藤先生、你是不是有掩盖的事情？[佐藤さん、あなたはもしかして何かを隠しているんですか？]

- (6) あなたはあの日、本当は広島に行かなかったんじゃないありませんか？

你那天是不是没去广岛？[あなたはあの日、広島に行かなかったんですね。]

日本語学習者である中国語母語話者の否定疑問文の習得研究を行った家村(1997)と邴(2004)は、談話のマーカ¹⁸⁾を表す「じゃないか」に関して中上級を問わず習得が進まず、「じゃないか」と「んじゃないか」の混同が見られたと述べている。「ではないか」(じゃないか)、「のではないか」(んじゃないか)については、本調査のフォローアップインタビューにおいて、中国人被調査者が両者の違いや使い方がよく分からないと発言している。「じゃない」については、中国語では否定にできないことから訳出が難しいと言えるのではないだろうか。

李(2011b)は、中国語の否定疑問文「不(没)～吗？」は、命題否定、事態確認の性質を持ち、予想と現実の間の矛盾から「非難、叱責・詰問」のニュアンスが生じる

とした。実際、本調査で作成された訳出文として、疑問文と同じ形式ではあるが、肯定の形で強い否定を、また否定の形で強い肯定を表す反語文も用いられた((7)(8)参照)。

(7) この前のパーティには行かなかったって言ったじゃないですか？

你不是说上次那个舞会你没有去吗？〔この前のダンスパーティに行かなかったって言ったじゃないですか。〕

(8) 彼を知らないのですか？

难道你不认识他吗？〔彼のこと知らないの？〕

次に、英語の調査結果について説明する。日本語の否定疑問文を英語に通訳した時、英語の場合も否定疑問文に訳出されるものとされないものが存在する。被調査者の多くが否定疑問文に訳出したのは以下のような発話文であった。

(9) 小説を書くとき、ワープロやパソコンはお使いにならないんですか？

Don't you use a word processor or personal computer when you write novels?

(10) さっき太郎に会わなかった？

Didn't you meet Taro a few minutes ago?

(11) (あまり食べていないね。) 食欲がないの？

Don't you have any appetite?

英語の否定疑問文は、以下の2つの意味(①②)を持つとされ、さらに、是非受けてほしい招待や申し出(③)、不平や批判を述べるとき(④)に用いるとされる(スワソン2007)。

①話し手がそうだと思っていることを聞き手に確かめるのに用いることができる。「Yes」の答えを予期している。

Didn't you go and see Helen yesterday? How is she? (あなたは昨日ヘレンに会いに行ったんじゃないの？彼女、どう？)

②話し手がそうではないと思っていることを聞き手に確かめるのに用いることができる。「No」という答えを期待。

Don't you feel well? (具合が良いわけではないんでしょう) (=あなたは、気分が良くないと私は考えていますが、それで正しいですか?)

③丁寧な依頼、招待、申し出

Won't you come in for a few minutes? (ちょっとお入りになりませんか?)

④不平、批判

Don't you ever listen to what I say? (私の言うことを聞いてくれないの?)

(スワン 2007, pp.567-568)

即ち、(11) は話し手が聞き手の様子を見て、自分が抱いた状況判断を相手に確認しようとする発話であると言えるだろう。

調査において、否定疑問文に訳されることが少なかったのは以下の (12) (13) (14) のような文であった。安達 (1999, p.152) は、「ではないか」文について、確認要求の形式を持ち、聞き手が情報を持っていると想定する点で典型的な平叙文とは異なるが、聞き手に対して問いかけるという性質を持っていないと述べている。これらの文を日本語話者の被調査者は、「あなたはパーティに行かなかったと言った。」というような事実を述べる肯定の平叙文か付加疑問文に訳した。

(12) この前のパーティには行かなかったって言ったじゃないですか？

You said that you didn't go to the party recently.

(13) 君の結婚相手、なかなか素敵な人らしいじゃないか。(安達 1999)

The person you got married with is a pretty good person, isn't she?

(14) 彼の芝居はなかなか評判いいじゃないの。

His play has got rather good reviews, hasn't it?

また、「インドの料理に詳しい人を誰か知らない？」というような人にもものを尋ねたりする質問文は、日本語ではその場での聞き手への配慮を伴って否定の形で質問することが多いが、英語では否定疑問文にはならない。

日本語否定疑問文の英語への訳出においては、付加疑問文への訳出がかなり見られた。但し、(15) 以外の文では、付加疑問文への訳出は 6 人の被調査者のうち各文で 1、2 人であり、その多くが英語母語話者であった。Woodbury (1984, p.205) は法廷で用いられる疑問文のタイプのうち、Tag question (付加疑問文) が最も支配的 (control) であると述べている。英語では、否定疑問文は肯定の傾きを持つものに対して、否定の付加疑問文は否定の傾きを持つとされる (今井・中島 1978)。(15) の発話の話者は聞き手が広島に行かなかったと思っており、相手に強くその確認を求めている。

(15) あなたはあの日、本当は広島に行かなかったんじゃないですか？

You didn't really go to Hiroshima on that day, did you?

(16) (もうすぐ 2 時だね。) 山田さんはもう来ないんじゃない？

Mr. Yamada isn't coming, right?

話者の強い思いを持った文には次のようなものも存在する。渡邊 (2012) は、英語の否定疑問文には以下の 3 タイプがあるとした。②の否定平叙疑問文と③の主語一助動詞倒置を伴うが「not」を主語の右側に置く否定疑問文は①よりも強い「否定の傾き」

を表現しており、以下の a, b だけではなく、< Yes, 否定文>< No, 肯定文>のパターンである c, d も可能な応答となると述べている。本調査では、9つの否定平叙疑問文が訳出されたが、うち7文は英語母語話者のものであった。

① Didn't you go?

a : Yes, I did.

b : No, I didn't.

② You didn't go (of course, I take it, right) ?

③ Did you not go?

c : Yes, I didn't.

d : No, I did.

(渡邊 2012, pp.59-60)

次に、フィリピン語の調査結果について説明する。フィリピン語の否定疑問文は、「Hindi ba ~?」と尋ねる疑問文である。フィリピン語への訳出に関しては、否定疑問文に訳されるものとそうでないものが比較的是っきり分かれる結果となった。日本語からフィリピン語に訳出するときに否定疑問文になりやすいと考えられるのは、「ないか」「ないのか」形式に多く見られた ((17) ~ (21) を参照)。

(17) 昨日、梅田に飲みに行きませんでしたか？

Hindi ho ba kayo pumunta sa Umeda kahapon para uminom?

(18) ここに来ると、楽しかった子どものころを思い出しませんか？

Pag pumupunta ka dito hindi mo ba naaalala ang mga masasayang alaala mo noong bata ka?

(19) 太郎はまだ来ていませんか？

Hindi pa ba dumadating si Taro?

(20) 彼を知らないのですか？

Hindi mo ba siya kilala?

(21) 怪我はまだ治らないの？ (安達 1999)

Hindi pa ba gumaling ang sugat mo?

フィリピン語では、韓国・朝鮮語や中国語と同様に、存在や所有を表す以下のような文は決まった表現を使用するため否定疑問文は用いない¹⁹⁾。

(22) 隣の部屋に誰もいませんか？ (小山 2002)

Wala bang tao sa katabing kwarto?

(23) 隣の部屋に誰かいませんか？ (小山 2002)

May tao ba sa tabing kwarto?

(24) (あまり食べていないね。) 食欲がないの？

Wala kang gana na kumain?

(25) (A : 高木さん。高木さんの知り合いで韓国語が話せる人っている?)

B : たぶん、いないんじゃないかな?

Wala siguro.

(26) この問題を解くのに、どこか難しいところはありませんでしたか?

Noong isolve mo itong problema na ito, wala bang mahirap?

(22) は、「wala」(いない)を使用した疑問文が使用されて、「人はいないのですか?」という質問文になっている。また、(23) は、「wala」を用いた被調査者もいたが、4人が「may」または「meron」を用いて、「人はいますか?」という意味の疑問文を作成した。

次に、以下の文では、英語の結果の説明で述べたのと同様の特徴が見られた。即ち、確認要求の形式を持っており、聞き手が情報を持っていると想定する点で典型的な平叙文とは異なるが、聞き手に対して問いかけるという性質を持っていない文(安達1999, p.152)である。これらは、英語と同様に、「きれいな人だそうですね」等の伝聞や話し手の判断等を述べる平叙文に訳された。

(27) 君の結婚相手、なかなか素敵な人らしいじゃないか。

Magandang tao daw ang mapapangasawa mo. [あなたが結婚する相手はきれいな人だそうですね。]

(28) 彼の芝居はなかなか評判いいじゃないの。

Maganda yung reputation ng pag akto niya. [彼の演技の評判は良かった。]

(29) 最近忙しくて疲れているから、怒りっぽくなっているんじゃないでしょうか?

Nagiging busy ka lately kaya parang nagiging magalitin ka. [最近、忙しいから、あなたは怒りっぽくなっているようです。]

(30) (もうすぐ2時だね。) 山田さんはもう来ないんじゃない?

Parang hindi na darating si Mr. Yamada. [山田さんは来ないようです。]

「~だよね」「~ですね」などの相手に念を押す付加疑問文は、文末に「hindi ba?」か疑問詞「ano?」を付けて表される。これらは、会話では、「hindi ba?」は「di ba?」に、「ano?」は「no?」によく縮約される(大上, ヨシザワ 2012)。本調査においては、(31)(32)(33)において、それぞれ3、4人の被調査者が付加疑問文を使用した²⁰⁾。

(31) (この間、街でばったり会ったよね?) たしか、君はそのとき誰かと一緒にいませんでしたか? (安達1999)

Diba noong time na iyon may kasama kang tao?

(32) この前のパーティには行かなかったって言ったじゃないですか?

Diba sinabi mo na hindi ka pumunta sa party na iyon?

affirmative confirmation questions に対する答えの「hindi」と「oo」は英語の「no」「yes」によく似ているとして、以下のような例文をあげている (*A Tagalog Reference Grammar* の § 7.13)。

- ① Darating (ba) si Pedro?
(Is Pedro coming?)
- ② Hindi (ba) darating si Pedro? ⇒ Hindi. (No. (He isn't coming.))
(Isn't Pedro coming?) Oo. (Yes. (He's coming.))
- ③ Darating si Pedro, ano?
(Pedro's coming, isn't he?)

しかし、以下のように、否定疑問文の文意が事実に合っているか否かによって使い分け、合っていれば「oo」を、合っていなければ「hindi」を応答文に先立って用いるとするものもある (山田 1989, pp.587-588)。

Hindi ba Pilipino si Pedro? ペドロはフィリピン人ではないか?

Oo, hindi siya Pilipino. はい、彼はフィリピン人ではない。

Hindi, Pilipino siya. いいえ、彼はフィリピン人だ。

筆者が知り合いのフィリピン語の通訳人や教師に確認したところ、日本語と同じように相手が尋ねたことに肯定するかどうかで答えると思うとのことであった。本調査では、否定疑問文に対する応答に関して、日本語とは異なる答え方をした発話文はなかった。但し、これに関しては、被調査者が原文の日本語に影響されたことも考えられる。

それでは、否定疑問文に対する応答が韓国・朝鮮語、中国語、英語、フィリピン語に訳されたとき、どのようになるのであろうか。通訳調査から、否定疑問文と応答の発話例を見ていこう。

韓国・朝鮮語、中国語、フィリピン語は大体、日本語と同じような応答がされた。

(34) <日本語調査文> A: 太郎はまだ来ていませんか?

B: いいえ、もう来ていますよ。

<韓国・朝鮮語訳例> A: 타로는 아직 오지 않았나요?

B: 아니요 벌써 와있어요. [いいえ、もう来ています。]

<中国語訳例>

A: 太郎还没来吗?

B: 不、他已经来了。[いいえ、もう着いています。]

<フィリピン語訳例> A : Hindi pa ba dumadating si Taro?
B : Hindi, nandito na ho siya. [いいえ、彼はここにいます。]

これに対して、英語の否定疑問文の一般的な答えのパターンは、前述のように「Yes, 肯定文」及び「No, 否定文」であるとされ、本調査においても以下のような訳出がされた。

(35) A : 小説を書くとき、ワープロやパソコンはお使いにならないんですか？

When you are writing a novel, don't you use a computer or word processor?

B : はい、使いません。

No, I don't. [いいえ、使いません。]

しかし、調査では、否定疑問文に対する英語の応答が「Yes, 肯定文」「No, 否定文」と訳されない事例も見られた。

(36) A : 太郎はまだ来ていませんか？

Hasn't Taro come yet?

B : いいえ。もう来ていますよ。

No, he's already here. (英語話者全員 No)

Yes, he is already here. (日本語話者全員 Yes)

(37) A : 彼を知らないのですか？

You don't know him?

B : いいえ、知っています。

英語話者 : Yes + 肯定 1人、No + 肯定 2人、日本語話者 : Yes + 肯定 3人

(36) (37) は、日本語話者と英語話者で応答の訳文が異なっていた例であり、英語母語話者の多くが「No, 肯定文」を使用した。また、先述の通り、強い否定の傾きを示すとされる否定平叙疑問文を訳出した文が9発話あり、(38) は、否定平叙疑問文に「No, 肯定文」で答えた例である。

(38) A : 太郎はまだ来ていませんか？

Taro hasn't come yet?

B : いいえ、もう来ていますよ。

No, he has arrived.

日本語型の応答はこの他にも現れており、英語の訳出文の適格性の判断を担当した

英語母語話者の講師によると、今回の調査のような短い会話のやり取りの場合、発話の状況の解釈が被調査者によって異なることがあり、その場合はどちらの応答の仕方でも間違いではないという説明であった。

さらに、応答に関しては、応答詞の役割が言語によって異なることも訳出に影響を与えていると思われる。于（1987）によると、日本語と中国語で応答表現の用い方に次のような違いがあるとされる。日本語の「いいえ」は単なる前文に対する否定の見解を表すものであるが、中国語には日本語の「いいえ」に相当するような応答詞はなく、否定辞を直接用いる。肯定の回答の場合も、「はい」に当たる独立した応答詞ではなく動詞質問文に対しては動詞文で、形容詞質問文に対しては形容詞文で応答する。また、否定を表す否定辞には「不」と「没有」の2種類があり、使い分けられている。過去の時点において事柄の完成した状態や経験などすべてを含めて一括して「没有」が用いられ、発話の設定した基準の時点より後の意志動作や超時的な事柄、動作の反復、習慣などは「不」が用いられる。

フィリピン語では、小辞 *ba* と疑問符を用いて表す「～は～ですか？」の一般疑問文に対する「はい」「いいえ」は、「Oo」「Hindi」である。打ち消しにあたる「ではない」という場合も文頭で「Hindi」を使う。また、既に触れたように、存在や所有の有無を表すときには「may」「mayroon」「wala」を用いるが、疑問文に答える場合もこれらを用いて答える（大上, ヨシザワ 2012）。

May kompyuter ka ba ?	あなたはコンピューターを持っていますか？
Mayroon ka bang kompyuter?	あなたはコンピューターを持っていますか？
Mayroon.	はい。
Wala.	いいえ。

(大上, ヨシザワ 2012, p.48)

従って、フィリピン語では、以下のような発話文に対する答えに「Oo」「Hindi」はほとんど使用されなかった。

- (39) (この間、街でばったり会ったよね?) たしか、君はそのとき誰かと一緒にいませんでしたか?
- (40) 隣の部屋に誰かいませんか?
- (41) 隣の部屋に誰もいませんか?
- (42) 佐藤さん、あなたは何か隠してるんじゃないですか?
- (43) この問題を解くのに、どこか難しいところはありませんでしたか?
- (44) どう? わからないこと、ない?

以上の結果から、否定疑問文に対する応答の仕方については、その言語が日本語型か非日本語型かによって実際の応答が決まるとは限らないことが分かった。また、各

言語における応答詞の役割は同じではないため、一様に捉えることはできないと思われる。

従って、否定疑問文に対する応答を訳出する場合には、「はい」、「いいえ」を表す応答詞を使用するか否かにかかわらず、必ず応答者の意志を明確に伝えることが誤訳や誤解を防ぐ最良の方法であると考えられる。

5.3 訳しやすさ・訳しにくさについて

日本語の発話を各言語に訳出した後、被調査者が訳出する際に訳しやすいと感じたか、訳しにくいと感じたかを5段階で判定してもらった。その結果を、「最も訳しやすい(2点)」～「最も訳しにくい(-2点)」として得点化し、通訳の際の困難度の目安とした。通訳者が分かりにくく訳出が難しいと感じる発話は、高い通訳能力が必要であるばかりでなく、通訳人に心理的負担を与えられられることから、特に経験の浅い通訳人にとっては正確で適切な通訳を遂行する上で障害になるのではないかと考えられる。今回の調査における被調査者の通訳しやすさについての判定の得点の平均値を示したのが表1²¹⁾である。

表1 訳しやすさ・訳しにくさの自己判定の点数(全体の平均)

KK 0.81	CC 0.83	EE 1.58	FF 0.63
JK 0.86	JC 0.14	JE 0.47	JF 0.71

表2は、肯定疑問文を訳出する際に被調査者がどの位訳しやすいと感じたかの得点を表している。2点に近いほど訳しやすいと感じられたと見做されることから、肯定疑問文が最も訳しやすいと被調査者に判断されたことが分かる(フィリピン語を除いて)。

次に比較的通訳しやすいと判断されたのは、各言語において否定疑問文ではない決まった表現形に訳される発話であり、表3はその訳しやすさの点数を表している。例えば、韓国・朝鮮語の「知る・知らない」、「いる・いない」、「ある・ない」を含む発話、フィリピン語の存在や所有を表す文、また、中国語では、「有…吗?」や「有没有」、「有……没有」を用い肯定疑問文で表すか命題の真偽だけをニュートラルに問いかける肯定の真偽疑問文で表現するものである。

調査に使用した日本語否定疑問文の文型では、「P(命題)ないか」、「傾きのない否定疑問文」が訳しやすいと判断されたが、その理由としては、これらの文型の発話の中に上記の存在などを表す定型表現が含まれていることも訳しやすいという評価につながったと思われる。既に述べたように、傾きを持たない否定疑問文は存在文が否定疑問文化化されていることが多いと言われる(安達1999)。韓国・朝鮮語、フィリピン語等言語において存在や所有を表す場合は、日本語のように否定疑問文を用いることはなく定型表現を用いることが一般的であり、それは通訳においては比較的取り組みや

すいプロセスであると考えられる。

一方、どの言語にも共通して訳しにくいと言う評価がされたのは「Pではないか」であった。各言語の平均点数は、韓国・朝鮮語：0.00、中国語：-0.17、英語：0.22、フィリピン語：-0.17であり、どれも訳しやすさの平均値（表1）より低い点数になっている。

5.1で、中国語話者にとって、「ではないか」と「のではないか」の区別が困難であると述べたが、他の言語の被調査者にとっても訳しにくさを感じさせることが分かる。これらの発話に対しては、訳出された通訳文から判断して通訳能力は劣らないと思われる被調査者も訳しやすさでは低い点数をつけており、心理的に大きな影響を受けるのではないかと思われる。

表2 訳しやすさ・訳しにくさの自己判定の点数（肯定疑問文）

KK 2.00	CC 1.78	EE 1.77	FF 1.33
JK 1.44	JC 1.11	JE 1.22	JF 1.33

表3 訳しやすさ・訳しにくさの自己判定の点数（存在・所有等表現）

KK 1.38	CC 1.07	FF 1.40
JK 1.14	JC 0.40	JF 1.47

6. 考察

ここで、本調査から見てきた否定疑問文訳出における特徴と課題を挙げておきたい。

第一に、通訳を経ることによる形式や意味の変化について。日本語の否定疑問文は形式的にも機能的にも多様なものを含んでいる。そのため、韓国・朝鮮語、中国語、英語、フィリピン語に訳した場合、否定疑問文にならないことが少なくない。存在や所有を表す文や、「Pではないか」、「Pのではないか」、「Pないのではないか」形式の文は否定疑問文に訳されにくい。但し、訳しやすさの点では定型文になるものは訳しやすい。被調査者の中には、起点言語である日本語の発話に忠実に訳そうとして、不自然な発話を産出してしまうこともあった。従って、形式と意味の両者に配慮した訳出が必要であろう。

否定疑問文に対する応答については、応答体系通りの応え方にならない場合もある。その場合、通訳言語の母語話者ではない日本語話者は自らが学習者として習ったパターンにとらわれ易い。

第二に、通訳者の感じる訳しやすさ・訳しにくさについて。2012年度に実施した『法廷通訳の仕事に関する調査』（高畑他 2013）において、法廷通訳人は否定を含んだ表現は訳しにくいと答えた。同様に今回の通訳調査においても、被調査者は否定疑問文よ

り肯定疑問文の方が訳しやすいと感じている。また日本語否定疑問文の中では、否定疑問文ではない定型文に訳せる文や文全体が否定事態の問いかけをなさない否定疑問文（「P ないか」の多くの文）、傾きのない否定疑問文に訳しやすさを感じていることが分かった。

第三に、通訳者の感じる訳しやすさ・訳しにくさと訳出の困難さとの関わりについて。通訳を行う際に訳出に影響を与えるであろう要因は様々あるが、起点言語の発話に否定が含まれていること、またその文形式が少し変わることでも通訳者には大きな心理的負担になることが明らかになった。

7. おわりに

「はじめに」で述べたように、法廷通訳においては何よりも正確さと忠実さが要求されるため、量刑と心証に影響する言語の等価をはからなければならない。実際の通訳現場においては、語彙・意味論分野、統語論分野、スラング、レジスター（言語使用域）を超えての等価性維持、具体的には、被告人の文化、教育レベル、男女別、年齢層、個人差などをいかにどの程度訳出するか等が訳出に様々に影響を与えらると思われる。つまり、同じ否定疑問文とその応答と言っても、その形式、通訳言語、通訳者が母語話者であるか否か、発話文に含まれる語彙や発話の状況等によって、訳出される目標言語の言語表現は変わり、また通訳の困難さも異なったものになる。従って、法廷での量刑と心証に影響する言語の等価をはかるためには、ある言語のメッセージを別の言語の個々のコード・ユニットで置き換えるだけでは不十分である。

通訳を経ることは、言語の形式が変化するだけでなく、機能的に等しい表現を使用しても、微妙な意味や発話の持つ力等まで正確に伝えることは難しいと思われる。従って、今後は法廷通訳において必要とされる言語等価とはどのようなものであり、どうすればそれがより担保されるかを具体的に検討すべきであろう。そして、それを法廷通訳人及び通訳人を使用する側である法曹三者が理解し、今後の審理等運用に取り入れていくことが必要であると思われる。

付記

本稿で使用したデータや情報の提供にご協力下さいました皆様に感謝します。なお、本研究はJSPS 科研費（課題番号 24653121）による研究成果の一部である。

【著者紹介】

水野かほる (MIZUNO Kaoru) 静岡県立大学国際関係学部准教授。専門は日本語教育・社会言語学。主な論文に「法廷通訳における訳出の難しさ ―否定表現の通訳例からの考察」(水野かほる・津田守編著〈2016〉『裁判員裁判時代の法廷通訳人』大阪大学出版会 .167-191)、「法廷通訳人が法曹三者の発言に感じる訳しやすさ・訳しにくさ ―

法廷通訳人のための『やさしい日本語』開発に向けてー(『Ars Linguistica』Vol.20 2013:73-89. 日本中部言語学会)がある。連絡先:mizuno@u-shizuoka-ken.ac.jp

【註】

- 1) 本稿は、水野かほる(2016)の研究に、その後実施した英語とフィリピン語の通訳調査結果を加え、新たな分析基準で記述したものである。
- 2) 田野村(1988)は、いわゆる終助詞の「か」で終わる文、及び「か」を伴っていないが文意に変化を来たすことなく「か」を補うことのできる文を疑問文とし、その上で、主たる述語が否定辞「ない」を伴う疑問文を否定疑問文と定義している。
- 3) 太田(1980)は「片寄り」と呼んでいる。この現象は否定疑問文だけに見られるものではないが、肯定疑問文より否定疑問文に多く見られるものである、とされる。
- 4) 張(2009, p.28)は、否定疑問文は「pであるという肯定的な仮説」を尋ねるものであるとし、この仮説が「傾き」であると規定している。
- 5) 本稿で用いる通訳言語については以下のように定義する。韓国・朝鮮語:主に朝鮮民族が使う言語で、朝鮮半島とその沿岸の諸島、および、済州島、鬱陵島などを中心に中国東北地方の南部にかけて話されている。本稿では、最高裁判所による呼称に合わせて「韓国・朝鮮語」とする(最高裁判所 2013)。中国語:中華人民共和国において公用語とされる普通話。フィリピン語:タガログ語をもとに作られたフィリピンの国語。また、4言語を選択したのは、「法廷で使用された外国語」(平成 23 年)(最高裁判所 2013)の上位 10 言語中、筆者にとって被調査者および当該言語についての専門知識の提供や発話の判断をしてくれる研究協力者の得やすい言語であったからである。
- 6) 公判は双方向のやり取りによる審理であり、通訳人は日本語から通訳言語、通訳言語から日本語への通訳を行う。今回は、日本語から他言語への通訳を対象を絞って分析を行った。
- 7) 被調査者は、日本語と通訳言語における高度な言語能力保持者という基準で選定した。男性 8 人、女性 16 人。平均年齢 38.3 歳。職業は、学生、教師、公務員、会社員等であった。
- 8) 小山(2002)は、日本語否定疑問文を「P(命題)ないか」「P ないのか」「P のではないか」「P ないのではないか」に分類している。本研究では、否定疑問文の範囲を広くとらえ、「P ではないか」、及び「『傾き』を持たない否定疑問文」(安達 1999)を含めて対象とする。
- 9) 「ないか」に対する「ありませんか」、及び「ないのか」に対する「ないんですか」、「ではないか」に対する「じゃないか」、「のではないか」に対する「んじゃないか」等、全て文体的変異体とみなす。
- 10) 各言語について指導者あるいは通訳翻訳等で携わっており、高度な知識を有する

研究協力者である。本調査はあくまでも通訳調査であるため、法廷での実務経験の有無は問わなかった。

- 11) 得られた通訳文を以下の3段階に分類し、BとCについては、その根拠を挙げてもらった。
A: 適切な訳文である。
B: 不十分な点はあるが意味は通じる。
C: 意味が正しく伝わらない、または当該言語として間違っている。
- 12) これ以降に提出する例文((番号)で記述)については、左に調査で用いた日本語否定疑問文、その後に被調査者が訳出した通訳文例を記述する。
- 13) 例えば、「彼を知らないのですか?」を韓国・朝鮮語に訳出する際に、「知る알다」の「ている形」の否定を使用した被調査者がおり、判定者の判断では文法的ではあるが少々不自然。
- 14) []内は、被調査者が訳出した文の反訳である。
- 15) 他に、「隣の部屋に誰もいませんか?」、「わからないこと、ない?」、「インドの料理に詳しい人を誰か知らない?」にこの形式が多く使用された。
- 16) 家村(1993)の例文を一部変えて使用した。
- 17) 「田中さんは学生ですか?」という文は、中国語では、A:「田中是学生吗?」、B:「田中是不是学生?」の二通りに表現することができるが、前者は「是非疑問文」、後者は「正反疑問文」と呼ばれている(沈1992)。
- 18) それ自体が情報内容を表すものではないが、話し手と聞き手の知識・情報・認知のあり方を明示的にマークし、両者の認識調整をはかり、談話構成やその理解の促進に積極的に貢献する機能を持った形式(蓮沼1993, p.39)。
- 19) 「～がある、いる、持っている」は may、mayroon、meron、「～がない、いない、持っていない」は wala で表す。
- 20) 文頭に「Diba」が置かれるのは、口語でよく用いられる用法と考えられる。
- 21) KK: 韓国・朝鮮語を母語とする被調査者の韓国・朝鮮語訳、JK: 日本語を母語とする被調査者の韓国・朝鮮語訳、CC: 中国語を母語とする被調査者の中国語訳、JC: 日本語を母語とする被調査者の中国語訳、EE: 英語を母語とする被調査者の英語訳、JE: 日本語を母語とする被調査者の英語訳、FF: フィリピン語を母語とする被調査者のフィリピン語訳、JF: 日本語を母語とする被調査者のフィリピン語訳、を表す。

【引用文献】

- 安達太郎(1992)『『傾き』を持つ疑問文—情報要求文から情報提供文へ—』『日本語教育』77号: 49-61. 日本語教育学会
- 安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
- 家村伸子(1993)「日本語否定疑問文の応答に関する中間言語研究」『日本語教育』81号: 81-92. 日本語教育学会

- 家村伸子（1997）「中国語母語話者の否定疑問文習得に関する基礎的研究」『広島大学日本語教育学科紀要』第7号：81-88. 広島大学
- 井上優（1992）「否定疑問文に対する『有標の応答』」『日本語学』1992年4月号：125-131. 明治書院
- 今井邦彦・中島平三（1978）『現代の英文法』第5巻. 研究社
- 于（ウ）日平（1987）「中日両語の否定応答表現について」『月刊言語』1987年3月号：78-85. 大修館書店
- エヴァンス, キース著、高野隆訳（2000）『弁護のゴールデンルール』現代人文社
- 大上正直・ヨシザワ, ジェニー（2012）『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ6 フィリピン語』大阪大学出版会
- 太田朗（1980）『否定の意味』大修館書店
- 大西智之（1987）「否定疑問文—中国人学習者の誤用例から—」『外国語・外国文学研究』11:13-26. 大阪外国語大学大学院修士会
- 大西智之（1993）「否定疑問文の日中対照」『帝塚山大学教養学部紀要』34：10-21
- 久野暉（1973）『日本文法研究』大修館書店
- 小山次郎（2002）「否定疑問文と『はい』『いいえ』」『奈良産業大学紀要』第18集:59-66.
- 最高裁判所（2013）『平成25年版ごぞんじですか法廷通訳—あなたも法廷通訳を—』スワン, マイケル著、吉田正治訳（2007）『オックスフォード 実例 現代英語用法辞典 第3版』研究社
- 高畑幸・水野かほる・津田守・坂巻静佳・森直香（2013）「法廷通訳の仕事に関する実態調査」『国際関係・比較文化研究』第12巻第1号：177-189. 静岡県立大学国際関係学部
- 田野村忠温（1988）「否定疑問文小考」『国語学』152集：109-123. 国語学会
- 沈（チン）国威（1992）「中国語における正反疑問文とその選択原理について」『文林』第26号：37-66. 松蔭女子学院大学国文学研究室
- 張（チョウ）雅智（2009）「現代日本語における疑問文の『傾き』—肯定・否定疑問文の機能を通して—」『文化』第72巻第3・4号：19-36. 東北大学文学会
- 中右実（1984）「質疑応答の発想と論理」『日本語学』1984年4月号：13-20. 明治書院
- 仁田義雄（1987）「日本語疑問表現の諸相」小泉保教授還暦記念論文集編集委員会編（1987）『言語学の視界：小泉保教授還暦記念論文集』（pp.179-202）大学書林
- 蓮沼昭子（1993）「日本語の談話マーカ『だろう』と『じゃないか』の機能—共通認識喚起の用法を中心に—」『第1回小出記念日本語教育研究会論文集』（pp.39-57）
- 邴（ヘイ）勝（2004）「中国人日本語学習者における否定疑問文の習得に関する研究」『学芸日本語教育』4:41-53. 東京学芸大学日本語教育研究会
- 水野かほる（2016）「法廷通訳における訳出の難しさ—否定表現の通訳例からの考察」水野かほる・津田守編著（2016）『裁判員裁判時代の法廷通訳人』（pp.167-191）大阪

大学出版会

山田幸宏 (1989) 「タガログ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編著 (1989) 『言語学大辞典』第2巻世界言語編 (中):578-591. 三省堂

李(リ)杰 (2011a) 「否定の意味を示さない『～ないか』について—中国語との対照を中心に—」『比較社会文化研究』第31号: 67-74. 九州大学

李杰 (2011b) 「“是不是”の『傾き』について—『のではないか』との相違を中心に—」『東アジア日本語日本文化研究』第12集: 45-62. 東アジア日本語・日本文化研究会

渡邊信 (2012) 「英語の否定疑問文に対する日本語的な応答」『麗澤レビュー』第18巻: 58-63

Paul Schachter, Fe T. Otones, *A Tagalog Reference Grammar*, [Online]<https://books.google.fr/books?id=E8tApLUNy94C&printsec=frontcover&hl=ja#v=onepage&q&f=false> (2016年7月11日閲覧)

Woodbury, H. (1984). The strategic use of questions in court. *Semiotica*, 48-3/4:197-228.